

月刊

部活動としての軽音楽を支援する情報マガジン

軽音楽部

発行：特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会

2024

4

新創刊 VOL.73
since 2013.DEC



写真は第1回 全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリで優秀賞を受賞した茂原北陵高等学校「ジャストリポート」です

部活動としての軽音楽を考える

高校生活での部活動と顧問の役割
多くの失敗の中から学び、成長する
仲間と音を奏でることのでられるもの
部活動運営における8つの提言
部活動の大会として土台にあるべき審査基準

アンサンブルが良くなる指導方法
音楽教科書が軽音楽部をパワーアップさせる！
オリジナル楽曲制作に取り組む意義
地方自治体や地域の活性化と新しい部活動の在り方
軽音協イベント・カレンダー

全国の中高大学校の 軽音楽部を支援する協会

全国の約 2,000 校の高等学校軽音楽系部活動の支援をしています

協会の主な活動

出版物の発行

- ・機関誌「月刊軽音楽部」の無料配布
- ・大会プログラムの発行

軽音楽部セミナーの実施

- ・パートごとの実技指導・アンサンブル指導
- ・音楽理論や作詞／作曲講座、DTM 講座
- ・楽器＆電気の知識、音響＆照明の知識

演奏発表機会の創出

- ・複数校の合同演奏会のコーディネート
- ・公共施設、地域行事などでの演奏会
- ・音楽合宿のできるホテルの紹介

ガイドラインの提案

- ・大会の審査基準／大会審査員
- ・外部指導員（コーチ）
- ・標準的な部室の機材の提案

講評・審査員・外部コーチ

- ・合同演奏会のコメントーターの派遣
- ・コンテストの審査員の派遣
- ・外部指導員（コーチ）の斡旋

他校・他県の情報交流

- ・オンライン顧問集会
- ・新任顧問のための初級技術講習会
- ・県を跨ぐ顧問交流のコーディネート

軽音楽部に関する
コンシェルジュです。
どんな事でもお気軽に
ご相談ください。



特定非営利活動法人（NPO法人）

全国学校軽音楽部協会

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央 1-37-6-405
TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900
MAIL：info@keionkyo.org URL：www.keionkyo.org

軽音協

検索



www.keionkyo.org
X @keionkyo

全国の中高大学の 軽音楽部を支援する協会

現在、全国の高等学校では軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部が学校教育の一環として、「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション（意思伝達）」「クリエイティビティ（創造力）」「チームワーク（協働）」「エンターテインメント（顧客満足）」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動であると認知されてきたからだと思います。私たちは、情報誌の発行、大会や合同演奏会の開催、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

Mission ～理念～

軽音楽部の諸活動を通して若い人材を育てる

Vision ～目標～

1 軽音楽部の学校内外における認知向上を図る

部活動としての歴史が浅い軽音楽部は、偏見もあり一般的に正しい認知が低いのが現状です。軽音楽を通じた部活動の有意義さを学校内外へ広めていきます

2 社会や地域貢献を視野に入れた部活動の提案

軽音楽部の活動範囲は、日々の練習や演奏会出演、大会への参加だけにとどまらず、地域や行政とのつながりを生みます。軽音楽部の活動を通じた社会貢献を応援します

3 生徒による自主、自立した部活動運営の支援

グローバルな視点からの上位下達ではなく自主的に動ける人間、これからの日本社会が必要とする自立した人間育成を目的とした部活動運営の支援をします

ご支援いただいている特別賛助会員の皆様（敬称略／順不同）

株式会社ミュージックネットワーク	大阪ビジュアルアーツ・アカデミー専門学校
公益財団法人かけはし芸術文化振興財団	名古屋スクールオブミュージック＆ダンス専門学校
一般社団法人サトヤマカイギ	ギブソン・ブランド・ジャパン株式会社
大阪音楽大学	フェンダーミュージック株式会社
名古屋芸術大学	有限会社エムエージー
宝塚大学	株式会社トップトラベルサービス
日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校	株式会社福々家（モアリゾート、ホテル寺尾温泉）
専門学校 ESP エンタテインメント東京	株式会社サウンドハウス
専門学校東京ビジュアルアーツ・アカデミー	音楽ロッヂ ゆうげん荘
専門学校名古屋ビジュアルアーツ・アカデミー	株式会社オーティーズ

特定非営利活動法人
全国学校軽音楽部協会
keionkyo.org



■月刊 軽音楽部 VOL.73 ■創刊：平成 25 年 12 月 18 日（水）■新創刊：令和 6 年 3 月 25 日（月）■発行：令和 6 年 3 月 25 日（月）／第 13 巻 4 号通巻 73 号
■監修・発行／特定非営利活動法人（NPO 法人）全国学校軽音楽部協会 〒224-0003 横浜市中区中川中央 1-37-6-405 TEL：045-913-0901
FAX：045-913-1900E-Mail：info@keionkyo.org ■企画・編集／株式会社ミュージックネットワーク

部活動としての軽音楽を考える

interview



高校生活での部活動と顧問の役割.....4

愛知県高等学校文化連盟 事務局長 森崎忠彦



多くの失敗の中から学び、成長する.....6

関西大学人間健康学部教授／日本部活動学会会長 神谷 拓



仲間と音を奏でることのでられるもの.....8

茂原北陵高等学校軽音楽サークル 顧問 北原悠督

部活動運営における 8 つの提言.....10

部活動の大会として土台にあるべき審査基準.....12

アンサンブルが良くなる指導方法.....13

音楽教科書が軽音楽部をパワーアップさせる！.....14

オリジナル楽曲制作に取り組む意義.....16

第 1 回 全国高等学校軽音楽部
オリジナルソング・グランプリ結果発表.....17

地方自治体や地域の活性化と新しい部活動の在り方.....18

軽音協プレミアムセミナー
初歩からきちんと学べる PA 講座 音響塾.....20

軽音協イベント・カレンダー.....21

音楽／エンタメ業界の仕事 2024

ライブハウスの仕事
専門学校名古屋ビジュアルアーツ.....22

From Chief-In-Editor

新装創刊に寄せて

目まぐるしく変化する時代に取り残されないためには、自らも変化するしかありません。特に本誌のようなメディアは情報媒体としての形態がどんどん変化しています。そんな時代に十年一日が如く…では時代に取り残されてしまうことは間違いありません。教育の世界でも同じことが言え、学校に WiFi が飛び、生徒が一人一台のタブレットで授業を受けるなど、教育の ICT 化が進み、十年前とはまったく様相が違ってきます。そんな中、「部活動としての軽音楽」を支援する情報マガジンも変化し続けなければなりません。本誌創刊の十年前と違い、軽音楽が学校内で広く認められるようになり、少子化の中でも部員は増加傾向にあり、生徒の演奏レベルも年々高まっていると感じます。軽音楽部が学校に認められた部活動のひとつになることは、ただ演奏レベルが高いだけではなく、教育の一環として、部活動の役割や本質が問われる段階に入ったとも言えます。

全国学校軽音楽部協会としても、その機関誌たる本誌の役割も時代に合わせて変化をし、時流に乗り遅れないようにしなければなりません。情報は日進月歩ならぬ、秒進分歩です。メディアも紙からオンラインに大きく変わりました。ただし、学校教育の根幹である生徒指導

の必要性は変わりません。今回の新装創刊にあたり、紙メディアは顧問の先生を対象に、生徒にはオンラインでコンテンツや映像データを整理、提供する方向に変化します。楽器演奏のスキルアップは部活動としての軽音楽部の本質ではありません。部活動を通して、生徒の人間の成長を育むには、ティーチングだけではなく、コーチングの発想も必要だと思います。新装創刊に伴い、本誌は顧問の先生方を対象にした内容に照準を合わせ、オンラインやリアルな交流や意見交換の機会を提供していきますので、引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈いします。



三谷佳之

特定非営利活動法人全国学校軽音楽部協会 理事長

Email mitani@keionkyo.org
Facebook yoshiyuki.mitani
Instagram mitani.yoshiyuki
X (Twitter) @mitaniyoshiyuki

組織的に生徒の発表の場を準備する高文連のような組織が、今後益々必要になる

学校教育の視座

高校生活での部活動と顧問の役割

森崎忠彦

愛知県高等学校文化連盟事務局長

愛知県教育委員会に出向後、教頭時代に2年、退職後に8年と、10年に渡り愛知県高文連事務局長を勤められ、「コロナ禍の中、軽音楽専門部設立に尽力された森崎先生に、部活動や軽音楽部の過去・現在・未来についてのお話を伺いました。

高校生活はただの3年間じゃない

―学業と部活動とのバランスとは…
森崎…比率として1対1が良いとか、2対1、1対2…とかは、個人個人で違うと思うのですが、1対0、あるいは0対1は推奨できません。部活動の持つ意味は、学校生活において大きいものがあります。教員として「学業があつての部活動」でなければいけないと思つていますが、1対0、すなわち部活動をしないということが高校生活の充実につながることはないと思います。同じ志し…という大袈裟ですが、同じ方向を向いている他クラス、他学年の生徒と交わりながら何か活動することはとても大切です。現代は動

画サイトなどで技術的なことは学べたり、1人でできることもたくさんありますが、やはり学校生活の中で他の生徒と何かを極めていくという経験が、将来のために大事なのだと思います。

―高校生活の中の部活動の意義とは…

森崎…まず言えるのは、部活動とは生徒の人間形成において非常に重要で、かつ間違いない大きな役割を果たすということです。校長時代、入学式や卒業式の式辞で口癖のように「高校生活はただの3年間じゃない」と言っていました。大人は誰もが実感していると思いますが、例えば90歳で天寿をまっとうした方にとつて、高校の3年間は単に30分の1の重みじゃないですよ。10分の1やそれ以上のウェイトを占めているんじゃないかと思ひます。多くの生徒の3年間は横で見えてきましたが、高校時代は最高の成長期でビックリするほどです。その最たるものが部活動だと思います。具体的な例で言うとうっかりやさしいかもしれませんが、

例えば高校に入つて始めたラグビーでも、3年間部活動で励んだおかげでラグビーの有名大学に行くほど成長した生徒もいます。日本音楽の琴なども同様で、自宅で習得することがほぼ不可能といつていい技能でさえ、部活動で身につけることができるケースもたくさんあります。部活動は、高校生活の3年間をより有意義にしてくれる、非常に大きな存在だと思います。

きちんとした活動を積み上げるしかない

―高文連の中の軽音楽部について…

森崎…昔の「ロックは不良」「エレキギターを持つていること自体が悪」のようなイメージが愛知県では消え去るのが遅いと感じていて、そういった風土の中では軽音楽部の活動はなかなか難しいと思います。学校関係者の中にも少なからずいるのはもちろん、地域の方々にもその影響が強く残っているなと感じることが随所

に実績を積み上げていくしかないかなと感じました。それは、当時も今も強く思っています。

地域移行や地域指導者への委託には限界がある

―軽音楽を部活動で行うことには、生徒の人間形成としても大きな意味があると思うのですが…

森崎…昔からのイメージから脱却しきれない方が多い要因の1つとして、学校における部活動の位置付けがはつきりしていないとか、安定的でないことに大きく関わりがあると思います。戦後に新制高校ができた時は、部活動は選択科目の1つだったんです。それが昭和35年頃からカリキュラムの外に飛び出してしまつて、部活動は必ずしもしなければならないものではないけれども、誰しもがその大きな意義を認めている…という、綱渡りのなやり方を続けてきた歴史があります。それを今現在、どういった形に変えていくことが良いのかが問われているのだと思います。

―教員の働き方改革の中での部活動顧問の役割とは…

森崎…昔から思っているのですが、「顧問」という言い方も変ですよ。一般的には何の決定権もない「アドバイザー」という意味なはずなんです。引率中のケガなども含めて責任が非常に重いです。このアンバランスさも部活動の位置付けを不明確にしている大きな理由だと思います。個人的には「地域

移行」「地域指導者への委託」といったやり方には限界があると思つています。例えば、その分野のスキルが高い方でも、対高校生という点に関しては失礼ながらまったく素人と言つてもいい方がほとんどだと思います。声の掛け方だけでも人間関係のトラブルは絶えないだろうと想像します。学校が部活動と関わりを絶つというのは、幻想であり不可能であると私は思っています。しかし、その一方で、

やれる人あるいはやりたい人だけで部活動を運営していくという発想の転換は必要になってくるでしょう。愛知県の私学の吹奏楽部で一部始まりかけているんですが、学校同士のネットワークを作り上げ、指導できる顧問が他校の生徒の面倒もみるといった体制を作ることも有効だと思ひます。事故などがあつた時の心配はありますけどね。

三重県研究大会を全国軽音楽専門部設置の起爆剤に

―軽音楽専門部の設置の経緯は…

森崎…未加盟の私学に対する高文連への加盟促進活動でいろいろな学校をまわつてしていた時に、どの学校でも異口同音に開口一番、「軽音楽とダンスの専門部はありますか？」と聞かれました。そんな時期に軽音協さんとの接点ができ始め、設置に動き始めたという経緯があります。軽音楽専門部設置が直接の理由となつて加盟してもらえ学校も増えました。

―令和6年には12月に全国高文連の研究

にあります。江南市の学校長時代に、青年会議所の方だったと思うのですが、カウントダウンコンサートをするので大晦日の深夜に演奏してくれるバンドを紹介して欲しいというお話をいただいたことがあります。その方はバンドは昼間演奏しちゃダメだという考え方をお持ちで（笑）、もちろんお断りしたんですが強く印象に残っています。

―状況は変わってきていますか…

森崎…軽音協さんと顧問の先生方が愛知県で連盟（愛知県高等学校軽音楽連盟）を立ち上げられて、令和3〜4年度を中心に、その力を土台にして愛知県高文連に軽音楽専門部を設置しました。コロナ禍でしたが、かなり早いスピードで設置できたと思つています。しかし、設置審査会の時には休憩スペースなどで立ち話をすると、若い方でも愛知県での設置に対して懸念される方もいました。これは作つてしまつて、きちんとした活動をして軽音楽部の意義を知ってもらえるよう

大会が三重県で行われます…

森崎…研究大会は、主管県が中心となつて地域ブロックで分科会を運営するという慣わしになっていくので、軽音楽専門部の華々しいデビューの有効な機会にしたいと思ひました。現在、軽音協さんにもワークショップを行つていただくようお願いしていますが、研究紀要の原稿や実践発表の内容もすでにほぼ固まっていますので、必ず良いものになると楽しみにしています。三重県大会が、全国高文連の軽音楽専門部設置の起爆剤にもなりうらと思つています。

―最後に一言メッセージを…

森崎…先日亡くなられた漫画家の鳥山明さんは、私が最初に赴任した起工業高校（現・一宮起工科高校）の卒業生なんです。在学中の彼が漫画同好会を作ろうとした際、誰も顧問になつてくれなかったというエピソードが残っています。50年ほど前には、漫画文化はそれぐらいの受け取られ方をしていたのだと思いますが、漫画文化の現状を見ればまさに隔世の感があります。軽音楽部という部活動についても、かなり認知度は上がつてきましたが、さらにその存在感を高めていってもらいたいと思つています。今後の高文連は、学校と関係者、業者などをつなぐミドルマネジメント的な用務に軸足を移していくべきだと私は考えていますが、そのことを通して、10年後に予定されている全国総文祭愛知大会が成功裡に運営されることを強く願っています。

インタビュー／文・辻伸介



部活動とは

多くの失敗の中から
学び、成長する
神谷拓関西大学人間健康学部教授
日本部活動学会会長

現在、関西大学人間健康学部の教授であり、日本部活動学会の会長を務められている神谷拓先生に、これからの部活動の在り方や顧問の役割、部活動が生徒の成長にとってあるべき姿についてお話を伺いました。

顧問の役割は「相談役」。何事も失敗の中から学ぶという姿勢が大切

―ご自身の部活動経歴は…

神谷…中学校ではサッカーを、高校・大学では空手をやっていました。高校時代の空手部には指導者がおらず、外に出稽古に行ったり自分たちで活動をしていたのですが、大学の武道系部活動は競技系なので、それなりに上下関係があり理不尽なこともありました。高校時代と180度違う環境に、どちらが本当の「部活動」なんだろうという思いがありました。それが原体験になり、大学の卒業論文は部活動をテーマにし、それは大学院にも続いていきました。そもそも学校は自分たちで課題を解決していく場であり、生徒

が主体となった部活動というものを追求していく必要があるんじゃないかと、今も研究を続けています。

―部活動の在り方や役割とは…

神谷…私は音楽のことは詳しくないのですが、例えば、演奏場所の確保や曲目、演奏について自分たちで考えていると思います。軽音楽部の部員には当たり前かもしれませんが、運動系部活動では顧問に頼りきっている部もあります。そういう意味で、軽音楽部の方が本来のクラブの形に近いかもしれません。例えば、文化祭などで演奏できる場所を自分たちでつくっていく環境にあること、そういった演奏の土台に視野が及ぶことは良いことだと思います。もともとクラブというものがある近代社会で生まれた時にはサロンと一体化しており、自由に語らい合いながらピカソやダリなどがオリジナリティのある芸術作品を生んでいました。軽音楽部の「部室文化」というか、部室（練習場）から演奏発表する場を求めていく

という流れは、クラブの歴史から見ると王道なのかもしれません。

―顧問には専門知識は必要か…

神谷…教師に専門的な技術や知識を求めてはいけないと思います。これは運動部でも同じですが、そもそも教員免許を得る時にそれらの部活動に関した科目はありません。むしろ教師に求められるものは、いわゆる「顧問としての役割」です。顧問とは「相談役」という意味ですから、演奏したいけど機材や用具がない、文化祭でこういうことしたいけどどうしたら実現するか…といった運営に関する相談に、大人として「こうしてみれば」とか「あの人はこう言ってたよ」などの助言をすることが教師としての守備範囲だと思います。何事も失敗の中から学ぶという姿勢が大切で、現在日本も批准している「子供の権利条約」でもそういった精神が大切にされています。大人になるということは、いろんな失敗をして、次にそれを活かしていく過程で成長して

いくことです。生徒がまだ未熟だからと先生がやってあげてしまうと、子供の伸びしろや可能性を奪ってしまいます。そこをグッと我慢できる資質を教師は持っているはずで。授業においても全部答えを教えてしまうのではなく、自分で課題を解決させる「アクティブラーニング」が日本の教育現場でも重視されていますので、そういった教師の専門性を部活動にも貫いて欲しいと思います。

コンテストで優勝するよりも、自分たちで何かをつくっていく方が大切

―生徒主体の部活動の意義とは…

神谷…クラブの語源は「自治」とか「社交」というところにあります。部活動は生徒が自分たちでつくっていくことが本来の形で、その経験が社会に出た時に役立ちます。「カンパニー」という言葉も、もともと1つのパンをみんなで食べるといった意味で、自分たちでつくっていくという部分で実はつながっています。現在、



生徒向けに「クラブの作り方」などのワークショップを開催しているんですが、それを会社の企業研修で大人向けにも行っています。実際に遊びのクラブを作ってもらい、それが今の職場でどう活かしているかを考えていきます。例えば、軽音楽部ではバンド名に自分たちの願いを込めてつけていると思いますが、それは会社でのミッションやパーパスと一緒なんです。会社も同じように企業としての理念があ

るわけですが、組織として目指しているパーパスを意識していますか、チームの中で役割分担できていますか…といった感じですね。余暇で作ったクラブとはいえず、真剣にやることで労働や人とのつながりが生まれ、目的を設定したり役割を分担することにつながっていく…。そういう見通しを持っていて欲しいですね。

―部活動の経験が社会で役立つと…

神谷…好きなことに遊びの要素を入れながら真面目に取り組むことは、根っこの部分で将来に生きてくると思っています。楽器の演奏が上手いとかコンテストで優勝することよりも、むしろ自分たちで何かをつくっていくことの方が、生きていく、働く、生活していく上では大切な経験となります。目標は大事ですが、そこに必ずしも順位付けは必要ないのではないのでしょうか。また、大きなフェ

順位付けよりも生徒に「評価する力」を身につけさせる

―大会至上主義からの脱却…

神谷…小学校での話ですが、ミニバスケットボールの全国大会では、全国1位を決めずにブロックごとのリーグ戦で終了になっています。順位付けよりも大切なことがあると、参加者のコンセンサスが得られれば難しいことではないと思います。柔道では全国大会をなくしていく流れになっており、ブラジルでは中学校のサッカーの全国大会をやめたとか。スポーツで一等賞を決めて喜んでいるのは東アジアの一部の国だけじゃないか、とも言われています。大会で良い成績を収めれば優秀というのも少し違うと思います。それよりも多様な機会を儲けてあげることが大切で、音楽もやるしスポーツもやるのか。投手と打者もすごいですが、もつと

ダイナミックな二刀流が出てくる方が望ましいと思います。

―軽音楽部では「全国大会」の乱立が…

神谷…全体を統括する部署がないためボーダーレスになっているのかもしれないですね。統一されたルールがない状態では順位付けも難しいでしょう。演劇部などでは生徒を好評側にまわらせて力をつけていくっていうことをやっています。演奏するだけじゃなく、少し押しつけがましい感じもありますが、日本の教育現場ではまだ「批評する力」「コメントする力」を身につけさせられていないと思います。上手に笛が吹けたかなどの評価基準だけではなく、音楽文化についての理解や歴史的な意味、発展の過程を知って文化的に評価する力…。音楽系の部活動とも運動して、どうしたらそういった力が育つのかを考えていきたいですね。

―顧問の先生方にメッセージを…

神谷…運動系の部活動は文化系部活動から学ぶべきところがたくさんあると思います。運動部は与えられた場で活躍することが多いので目立っていると思うのですが、クラブの語源は「自分たちで作る」「みんなで集う」「語らいながら良いものをつくっていく」ということです。自信を持ってそこをベースに活動していつか欲しいです。それがそもそのクラブというもののなので、生徒に真剣に遊んでもらえる場所を提供してあげてください。

インタビュー・三谷佳之

文・辻 伸介

優勝校顧問に聞く

放課後になるのが楽しみに感じる、自然と皆が集まる生徒主体の部活動を目指して…

仲間と音を奏でることで得られるもの

北原悠督
茂原北陵高等学校
軽音楽サークル顧問

―「第1回 全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ」の優秀賞受賞、おめでとうございます。受賞したジャストリブートは、どんなバンドですか。

北原…ちょうど1年ほど前に、前身バンドが解散してしまったのですが、たまたまジャストリブートのメンバーが3人と、もクラスメイトで、顧問の私が知らないところで「3ピースのガールズバンドを組まない？」という話になり、結成されたと聞いています。

「REBOOT」は最初のオリジナル曲です。ボーカル&ギターとドラムが双子の姉妹なのですが、前に組んでいたバンドのメンバーが練習に来なかったり、いい加減部分があつたらしく、そういったことへの怒りを込めた曲になったと聞いています。歌詞を作っている当時は、まったく意識していなかったのですが、出来上がった歌詞を見返してみたら（「私は」そんなことを思っていたのかな：（驚）」という話を話していました。

したメロディが使用されています。

―部活動を運営する際の方針や目指しているものは…

北原…「いつでも行きます！どこでも演奏します！」という感じでしようか…（笑）。あまり私の考えを押し付けないようにしています。例えば、「大会で優勝する！」という目標は、それを目指したいバンドがいれば、それで良いですし、「僕たちは合同ライブに参加して、楽しくやれば良いんです…」というバンドもあるのですが、顧問の私が「絶対にコンテンツで優勝するぞ！」とか「オリジナル曲を○○までに作れ！」という指示をすることはありません。

本音ではオリジナル曲をたくさん作って欲しいですし、大会にも積極的に挑戦して、入賞を目指して欲しいのですが、私の考えや気持ちを強制しないようにしながら、何となくそういう方向には持っていくんですが（笑）、大前提として、放課後に仲間とワイワイと活動している感じがすごく好きですね。

周りの人たちからすれば、目的もなく音を出しているように見えるかもしれないのですが、一緒に音を出さずには生徒同士が仲良くなっているし、あまり「練習」という感じを出したくないんです。イメージとして、運動部の場合は「うわ、放課後に練習かあ…」という感じがあるじゃないですか（笑）。でも、軽音楽部の場合は「あー、放課後にバンドで演奏できる！早く授業が終わらないかな…」というワクワクした気持ちでいて欲しいですね。これからも、

―茂原北陵高校への着任や軽音楽サークルの顧問歴は…

北原…令和元年（2019年）に本校へ着任し、翌年の令和2年度に軽音楽サークルを立ち上げました。私が本校へ来るまでは軽音楽系の部活動やサークルは、なかったそうです。軽音楽サークルの顧問歴は今年度で4年目になります。ちなみに、本校に着任して1年目は野球部の部長（顧問）を務めました。

これは本校に限ったことではないと思うのですが、最初のうちは、ワットと入部希望者が来てくれるのですが、いざ楽器を弾いてみると難しく感じてしまったり、「自分には合わないかも…」ということで、退部してしまう生徒が少なくありません。今年度に卒業した3年生も最初は10人以上がいたのですが、最終的に残ったのは3人でした。

ところが、現在の2年生の代からは辞めずに続けている生徒が多い印象で、「ようやく部活動としても形になってきたかな…」という思いがあります。私自身はギターを

そういう雰囲気大切にしたいサークルになれば良いな…と考えています。

―部員の結束力を高めるために行なっていることは…

北原…何となく音を出して、皆で楽しくワイワイとやっていることが、自然と結束力の向上につながっているのかもしれない。それから、春休みの最後の週は、ほとんど毎日何かしらのイベントや演奏会に参加するのですが、そこでみんなで集まって、顔を合わせるということになります。本校で合同ライブを開催することができれば、みんなでイベントを運営して、他校さんをお招きして…という風になると思うのですが、楽器や機材をはじめ、顧問の私自身もまだまだ至らない点ばかりなので、今後の課題です。

―生徒指導で心がけていることは…

北原…「片付けはちゃんとやること」「遅刻はしないこと」（勉強の）成績を落とさないこと」くらいでしょうか…。学校生活を送る上での基本的なことしか言っていないですね。

それから、人と同じことはしないで欲しいと思っています。具体的には、ライブ中のありきたりなMCだったり、盛り上げるためのパフォーマンスにも「定番」があるじゃないですか。周りと同じことをやっているだけでは飽きられてしまうし、そこには個性が1つもないので、どんなことでも良いから、バンドの核になる「オリジナリティ」を確立してもらいたいですね。

インタビュー／文・三谷暢之



弾くのが好きで、趣味に産毛が生える程度なのですが（笑）、コピー曲を演奏したり、オリジナル曲を作ったこともあります。

―部員数やバンド数、部費などは…

北原…現在の部員数は20名で、5バンドが活動しています。男女比は5対5で、ちょうど半分かくらいでしょうか…。以前は圧倒的に女子生徒が多かったのですが、ここ最近では男子生徒も増えてきた感じがあります。

活動費は学校から年間で三万円をいただいています。当初、生徒からは年間で二万円〜三万円を徴収していたのですが、次年度からは部費を五万円にしようと考えています。壊れた機材を修理に出したり、必要な備品等を購入する際にあてています。

―活動内容と年間を通した行事は…

北原…平日は毎日活動しており、その曜日に練習したいバンドが楽器や機材を出して、取り組んでいます。他校さんの場合は、きつちりと曜日ごとにローテーション

ンを決めたり、時間帯で区切って練習していると思うのですが、本校の場合は何となく生徒たちで上手にサイクルが成り立っており（苦笑）、好き勝手に楽しく取り組んでいる感じがします。とはいえ、夏休みや春休みなどの長期休み期間中は、ある程度のスケジュールを組んでいます。基本的には生徒たちに任せています。

ジャストリブートの練習も顧問の私は、ほとんど見に行かないです。バンドが結成されたばかりの頃はプロデューサーのように「ここをこうしたら、どう？」という風に言っていた時期もあったのですが、私自身の知識は趣味に産毛が生えた程度のもので、顧問があればこれと言ったよりも、生徒たちが試行錯誤して、練習を繰り返すうちに自然と上達していることが多いので、特に指導はしていません。出来上がったオリジナル曲を聴かせてもらっては、いつも驚かされています。ちなみに、本校ではチャイムが鳴る前に「予鈴」があるのですが、3年前から毎年、この予鈴には本校の軽音楽サークルが録音

北原悠督プロフィール

大阪府八尾市出身。2014年4月、務めていた一般企業を退職し、狭山ヶ丘高等学校（埼玉県）に非常勤講師として着任。いくつかの高校にて勤務後、2019年4月より現職。翌年に軽音楽サークルを設立。大のビートルズ好き。

部活動運営における8つの提言

文・辻 伸介

「軽音楽部」は現在かつてないほどの注目を集めています。しかし、しっかりとした運営スタイルが確立されている運動部や吹奏楽部などに比べると、学校や世間から市民権を得るまでには、まだまだ時間がかかりそうです。春になると、今まで後輩だった1年生が部活動を牽引する「先輩」となり、新入部員を迎える時期になります。この機に「軽音楽部の在り方」や「部活動とは何か」などを、新入部員を迎える準備と共に様々な角度から考えてみてはいかがでしょうか。

提言1

「軽音楽部とは何か」を考える

軽音楽部は部活動です。すなわち、軽音楽（ポピュラーミュージック）を通して生徒の成長を育むことが目的です。近年、軽音楽部は責任感や連帯感の育成として適していると学校関係者から認知されてきています。軽音楽部は、アンサンブルではチームワークを、意見を出し合ったりオリジナル曲を作ったりすることではクリエイティブティを、そしてそれらを行うためのコミュニケーション力が育まれます。しかも、少数の「バンド」に分かれて自発的に活動することが最大のポイントです。

また、軽音楽部の活動内容は楽器の習得やバンドごとの練習だけではありません。大きなステージで演奏したり、部員が運営側にまわって音響や照明を行うなど、普通のバンド活動では経験できない機会があります。さらに、音源を制作したり動画を制作したりと、アイデア次第で様々な活動が広がっていることも大きな特徴です。軽音楽部は現代にピッタリな部活動なのです。

提言2

「先輩」の自覚を持たせる

1年間培ってきた部のリレーションや手順は、新年度にリセットされます。新入部員に部のルールを1から覚えてもらうには、上級生が「先輩」としてケアしていくことが必須です。特に、今まで教わる側だった1年生は春から上級生となつて教える側にわまります。彼らがいかに先輩としての自覚を持ち、部の伝統やルール、機材の使い方などを伝えていけるかがカギです。

軽音楽部は、かつてのネガティブなイメージから脱却して新たな時代へと向かっています。きちんと部活動として継続していくためには、生徒自身がどう考え、どう行動するのかにかかっています。新入生は、良い面も悪い面も、部活動以外の生活態度も先輩を参考にしてしまうものです。先輩は新入部員のお手本として、普段から服装の乱れや挨拶の有無などにも気を配り、遅刻や欠席がない、成績を落とさないなど、部活動のせいだと言われないように意識して生活する必要があります。

提言3

「演奏発表」の場を作る

部活動には、日々の活動の成果を披露する場が必要です。軽音楽部の場合は「ライブ」という形になり、校内での定期演奏会、文化祭などの他に、新入生歓迎会や卒業コンサート、町内のお祭りへの参加などを行っている学校も少なくありません。また、近隣の学校を招いたり自ら遠征して「合同演奏会」を行えば、音楽仲間が増え普段にはない良い刺激になります。自校開催の場合は、部員がホストとなつて他校の生徒をアテンドしたり、会場の設置から音響・照明などのスタッフ、スケジュール管理といった運営の仕事を通してより一層社会的な経験を積むことができます。

軽音楽連盟や古文連専門部がある県では「大会」が開催されている場合もあり、参加すればより広い範囲での他県・他校の生徒の演奏に触れ、モチベーションを高めることにつながります。また、クリニックや講習会などへの参加も、より広い視野で音楽を捉えられるようになるチャンスです。

提言4

部室を「整理整頓」する

部室は気をつけていないとすぐに乱雑になってしまいます。楽器や機材、個人の荷物で溢れかえっていたり、古い掲示物が破れかけていたり、譜面や雑誌などが散乱していたり…。そうなるを掃除も億劫になるので埃がどんどん溜まっていきます。新入生が入部してくる前に、部室や練習場、機材部屋の環境を見直してみしましょう。年度変わりに機材の点検や清掃をしておくことは、部員に機材を大切に扱う気持ちを芽生えさせるチャンスです。気温や湿度管理も忘れずに行いましょう。綺麗に整理整頓された部室や機材であれば、新入生も安心することでしょう。

スペースがあることが前提ですが、他の部のようにライブ時の写真を壁に貼ったりディスプレイ化した部員の作品、大会のトロフィーなどをレイアウトしたり、演奏会の日程などを掲示しておくことも重要です。軽音楽部の活動が校内や来賓へのアピールとなります。自慢できる部室を目指しましょう。

提言5

「部則」を作る

「伝統」とは単に長く続いていることではありません。軽音楽部の名に恥じない活動を何年にも渡って確立していかなければなりません。それは、過去の歴史も大事ですが、現在の状況を鑑みて未来に向かって構築していくことも同じように大切です。そのためには「部則」を作ることが有効です。まだないという学校は、新年度に向けてぜひ部員と一緒に作成をして、見えやすい場所に掲示しましょう。

部則は言わば部の趣意であり、指針です。主な内容としては、「これをしてはいけない」といった禁忌的なことから、「こうあるべきだ!」という心得のようなものでも良いと思います。部員全員が日頃から守っていると思える項目にすることによって、部は結束し、良い上下関係を生みきつかけとなります。卒業して何年経っても後輩たちが自分と同じ部則を規範として活動しているとしたら、お互いとても誇りに思うことでしょう。

提言6

「練習」を見直す

軽音楽部は、バンドがいくつか集まってきたりするのはなく、軽音楽部という部活動に所属している部員がバンドに分かれているのです。軽音楽部への参加はバンド単位ではなく、あくまでも個人であり、バンドという形態は音楽を奏するためのチーム分けに過ぎません。軽音楽部の目的は音楽を通じた生徒の育成であつて、いわゆる「バンド活動」ではないのです。

日々の活動は、バンドごとに行うバンド練習がメインですが、他に部員全員によるミーティング、リズムトレーニングやストレッチを全員で行ったり、発声練習やスケール練習などをパートごとに分かれて行う学校も増えています。特に、初心者が入部が多い軽音楽部では重要な取り組みです。また、継続的にそれらの練習メニューを組み込んでいくことによって、課題が明確になり、良い上下関係が生まれます。先輩が下級生を指導することの相乗効果は小さくありません。

提言7

「連絡ノート」を作る

組織的に物事を進めていこうとした時に大事なものは「ホウレンソウ」です。「報告」「連絡」「相談」を略した言葉で、何をやるにしても必ず顧問や部長への3つを怠らないようにすることが大事で、トラブルや怪我などの防止のため必ず守るべきことです。また、「PDCAサイクル」と言われる、Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）を繰り返すことによって、活動を発展させていくことも重要です。これらがちゃんと行われていれば、組織としてより良い部活動に成長していきます。

この2つの実行には「連絡ノート」の活用が最適です。日々の練習の報告、成果や課題などを顧問とやりとりをして、今日の結果と反省を「活動日誌」として書くことで、モチベーション向上につながります。SNSの使用には注意が必要ですが、うまく使えば学校や保護者の皆さん、入学希望者へのアピールにもなります。

提言8

「合宿」を行う

全国の軽音楽部の中には、夏休みや冬休みに「合宿」を行っている学校も少なくありません。合宿を行えるということは、学校や保護者から「ちゃんとした部活動」であると認められているという証でもあります。逆説的に言えば、合宿が認められることが「良い部活動」への指標かもしれません。

合宿では、普段できないことが様々な行えます。長時間の練習が可能で、同じ釜の飯を食べるためバンドメンバー同士の交流が深まり、先輩後輩や他バンドの壁を超えてのコミュニケーション図れます。長いミーティングや発表会、初めてのオリジナル曲作り、いつもと違うメンバーでバンドを組むなど、部全体のレベル向上をはじめとした多くの相乗効果が見込めます。夏休みに行えば、大会に向けた最終調整の場としても効果的です。

予算や場所、期間、内容などの不安や質問があれば、当協会まで一報ください。

軽音楽部の心得十箇条

壹、軽音楽部は部活動と認識せよ

プロのアーティストのような振る舞いは必要ない。部活動であることを自覚しながら高校生として音楽を楽しみ表現しよう。

貳、音はすべて演奏と思うべし

演奏は「Show」である。ステージの上ではMCもカウントも音楽であり、最後の一言が消えるまでを大切にプレイしよう。

参、バンドは合奏であると理解せよ

バンドは集団行動だ。必要以上の個人的アピールや利己的なプレイは合奏の輪を乱しかねない。心して「合奏」しよう。

四、弦楽器の肝はチューニングなり

ギター、ベースはチューニングが狂いやすいものと思って常にチェック。どんなに良いプレイも台無しになってしまうぞ!

五、セッティングは素早く行うべし

バンド転換時に迷惑にならないように練習時からセッティングや片付けを素早く行う。時間の確保と心の余裕を生む。

六、「音楽」であることを忘れるな

バンドは大騒ぎするためのものではない。自己表現や人に感動を伝えるツールとして音楽を極めた方がずっと楽しい!

七、バンド練習は個人練習ではない

バンド練習中は個人的なチェックばかりではなく、メンバーとの合奏の良し悪しを確認する時間だ。個人練習は1人でできる。

八、常に演奏を客観的に評価せよ

練習も本番も必ず録音・録画して自分（たち）の演奏を確認しよう。客観的な判断が最大の自己プロデュースとなる。

九、上達に近道なし!と心得よ

何事も日々の鍛錬に勝るものはない。練習時間の捻出も自分次第。自己管理をして学業との上手な両立を目指そう。

十、信頼に足る仲間作りをすべし

クリエイティブな軽音楽部はメンバー間の摩擦も多い。意見が食い違っても冷静に聞く耳を持つことで信頼できる仲間となる。

審査員長が語る

部活動の大会として 土台にあるべき審査基準

軽音楽部の大会やコンテストは、部活動の大きな目標の1つです。しかし、音楽に点数や順位を付ける行為は様々な矛盾が生じます。審査員がどの点に注目して審査しているのか、基準となるべき部分はどこかを、4回に渡る連載で解説していきます。

点数、順位を付けることの疑問

音楽に対する評価に決まった基準はありません。発売されている音源であれば、人気がある（＝売れている）かどうかで判断できるかもしれませんが、音楽自体への評価は「良し悪し」ではなく「好み」であり、聴いた人それぞれの感想です。例えば、何百万枚売れたり何億回再生された楽曲でも、高度な技や理論が駆使されている楽曲でも、世界的なアーティストが高評価をした楽曲でも、ピンとこなければ自分にとって良い楽曲ではありません。

高校生の演奏に改善点を見つけアドバイスすること、点数を付け順位を付けることはまるで違います。近年、小学校の書初めや絵画コンクールの審査に疑問を持つ声や、そもそも賞をあげる必要があるのか、といった問題定義もされています。高校や大学の吹奏楽コンクールでも、毎年のよう

に審査結果について様々なネガティブな憶測が飛び交っています。多様性が叫ばれる現代、作品や創作物、表現に対して順位を付ける（賞をあげる）ことに疑問をもっている方は多いのではないのでしょうか。それは、かつての徒競走に順位を付けず手をつないでゴールしましょう、という考え方は似て非なる別なものです。

原因は「審査基準」の曖昧さ

軽音楽部の大会でも審査の基準は曖昧で、大会ごとに審査員がそれぞれの感性で評価をしているのが現状です。多くは「テクニク」「アンサンブル」「表現力」といった項目によって厳正に審査されていますが、評価が個々の感性に任されている限り、必然的に採点やそれに伴う順位も曖昧になります。専門家としてどうなの？...と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、原因は審査員のテキトーさではなく「何を良しとするか」が決まってい

ないことです。スポーツのようにルールや加点項目などが決まっていれば良いのですが、音楽の審査にそういったものはありません。例えば、これができたら何点...と加点減点があれこれと決まってい

たら、審査は楽になるかもしれませんが、あまり面白くない大会になってしまうでしょう。

大会が回数を重ねていくと、出場者全体のレベルは上がっていきま

す。優勝を目指して邁進する学校やバンドが増え、日々の練習に熱がこもっていきからず。それはそれでとても素晴らしいことですが、その思いがヒートアップすればするほど、青春を賭けた勝敗の決め手が「審査員の感性や好み」に頼っている状態では、出場者をはじめ関係者の全員が納得できる結果に終わることは少なくなっていく

ます。そもそも、どこに重点を置いて練習を積み上げていけば良いのかわからない、暗中模索な努力ほど辛いものはありません。

評価基準は「何を学んで欲しいか」

しかし、大会では審査を要望されることがほとんどです。では、軽音楽部の大会やコンテストで審査員はどこにポイントを置いて評価をすれば良いのか。やはり部活動の大会である限り、生徒たちに大会を通して何かを学んで欲しいという主旨・



目的が土台にあるべきです。ここからは、全国学校軽音楽部協会主催の大会における審査基準を元にした話になりますが、バンド演奏は複数人のチームで行うもので、他者とのコミュニケーション、そして皆んなで1つのことに向かつて切磋琢磨するチームワークが必要となります。これらは社会に出てから大いに役立つスキルです。個人スキルがどんなに高いメンバーが集まっても、バンドが一体となったアンサンブルやステージングなどに反映されていなければ意味がありません。そういう意味では、バンドにも団体戦スポーツの「One for all, All for one」の精神が重要になってきます。

文・辻伸介

軽音楽部の指導に困っている顧問必見！ 誰でもできるバンド指導のポイント！

アンサンブルが良くなる指導方法

① バンド練習とは「会議」である

軽音楽部で何を教えれば良いのか。多くの顧問から寄せられる質問です。確かに、専門的に音楽を教えることは部活動の「顧問」には負担が大きいと感じますが、音楽を通して他者との関わりや創作性、表現力を学ぶことが部活動です。アンサンブルを良くする指導をメインにすることで、個々の向上心も高まります。

音楽と料理

料理と音楽は似ています。素材の持ち味を活かして1つの作品にまとめ上げること、技術と知識とオリジナルな感性で創意工夫をすること、どうしたら人に喜んでもらえるかを考えることなど、根底にあるものは料理も音楽も同じです。オリジナル曲、コピー曲に限らず、複数人で料理（楽曲や演奏）をまとめ上げることがバンドであり、そのために行うのが日々の部活動です。

美味しい料理を作るには、例えば包丁の持ち方やフライパンの振り方といった一定の技術習得が必要になります。それは音楽をするために楽器の練習をすることと一緒に。しかし、包丁の使い方がうまくなかったからといって料理がうまくなかったということはありません。包丁

は料理をするための「道具」です。美味しい料理を作るために道具の扱い方を練習するのであって、包丁の技術習得が目的ではありません。音楽も同様に、楽器の技術向上の目的は楽器そのものの上達のためではなく、あくまでも「良い音楽」を奏するためにあるのです。

また、厨房で複数の人間が連携を取って1つの料理を作るには、何の料理をどんな味付けで作るのか、各作業にはどんな意味があるのか、最終的にどんな皿に盛ってどんな雰囲気の中で食べてもらうのか...といったことを全員がしっかりと把握し、それぞれが役割をきちんと遂行しなければなりません。すなわち、チームプレイであることの意識が最も重要なのです。

バンド練習とは何か

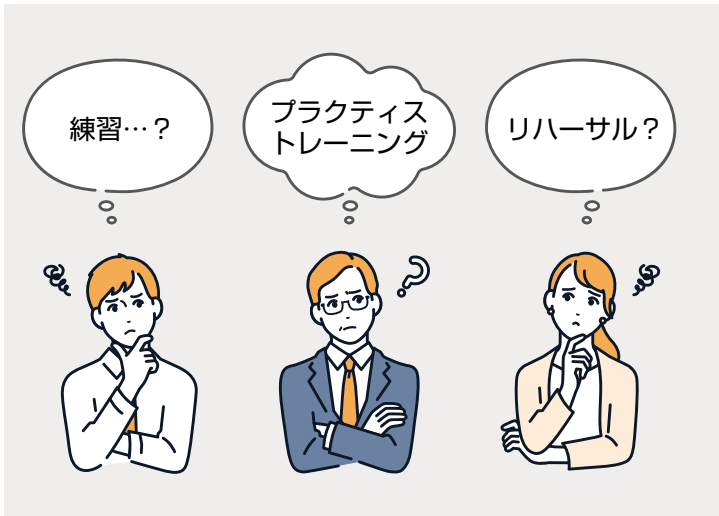
アンサンブルは日本語に訳すと「合奏」です。読んで字のごとく、演奏を合わせることでできているか、合わせようとしているかがチェック項目になります。しかし、合わせるべきものはフレーズやタイミングばかりではありません。音符の長さ、音色、音量、帯域、強弱、リズムなどから、歌詞の理解やドラマを共有する感情面にいたる

まで山ほどあります。

良いチームプレイ（アンサンブル）のためには、まず練習とは何かを考える必要があります。練習は英訳すると、プラクティス（技能上達のため自分で繰り返し行うこと）、エクササイズ（体力増強のための運動や知的訓練）、トレーニング（体力や技術を伸ばすための訓練）...と内容が分かれています。しかし、日本語ではすべて「練習」と言います。大事なのは、これらは全部個人練習を指すということです。さらに、混同しがちな言葉にリハーサルがあります。こちらは本番前に行う最終チェックのことです。すなわち、軽音楽部の活動で最もメインとなる「バンド練習」に対する言葉はないのです。一体、バンド練習では何を練習すれば良いのでしょうか。

練習は「打ち合わせ」

芝居の「稽古」という言葉は、バンド練習に近い気がします。しかし、「稽」という字には「考える」という意味があり、稽古とは古（いにしえ）の事柄に照らし合わせながら物の道理を学ぶこと...となります。やはり、こちらも個人鍛錬的な



意味合いが強いようです。

では、最もしっくりくる言葉は何か。それは「打ち合わせ」です。雅楽ではタイミングを合わせて笏拍子などの打ち物（打楽器）を鳴らすことを「打ち合わせ」といいます。転じて、現在では「物事がうまく合うようにする」「事前に相談する」という使われ方をしています。これがバンド練習で行うべきことです。

バンド練習は「会議（ミーティング）」です。その目的は打ち合わせであり、個人練習ではありません。毎回メンバー全員が議題や案件をクリアし、次回までに各々が何をしてくるのかを明らかにすることがバンド練習なのです。

文・辻伸介

音楽教科書が軽音楽部を パワーアップさせる！

部活動は、学校教育で大きな存在感をもっています。一方で、学習指導要領における部活動への言及は、次の通りあるのみです。

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。（注釈1）

各教科の内容に比べれば、言及は、ほんの僅かです。しかし「生徒の自主的、自発的な参加により行われる」ものが部活動であるとはつきり定義されています。加えて、「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること」ことが、学校で部活動を実施する意義でしょう。大学のサークル活動、民間クラブや教室と、この差別化が求められるはずです。

とはいえ、軽音楽部の活動と、教育課程がどのように結びつくか、今一つ想像し難いと思われる方々もおられるでしょう。しかし、その、「教育課程との関連」に

関するヒントは、すぐ身近なところにあります。それは、【検定済教科書】です。特に、音楽科を担当されていない先生方におかれましては、音楽教科書をご覧になる機会は少ないかもしれません。今回は、イマドキの音楽教科書（注釈2）を軽音楽部に関わる方々に向けて紹介します。

まず、音楽教科書を取り上げる利点三つを挙げます。

①児童生徒の発達段階に適合する記述や内容が精選されていること

教科書は、特定の発達段階の児童生徒を対象に絞って編纂されています。ここが、大人向けに市販されている楽器の教則本や音楽の理論書との大きな違いです。また、教科書は、限られた授業時間数の尺に収まるよう、分量も抑えられています。

②内容の信頼性が担保されていること

教科書は、制作段階より、幾度も複数の専門家が関わってようやく児童生徒の手に渡ります。教科書は、このようなチェックを経ない書籍に比べても格別の信頼性を担保できるでしょう。不適切

な情報まであふれているウェブサイト、YouTube等との比較では言うまでもありません。

③別途調達しても安価であること

高校では、音楽を履修していない生徒がいます。学校によっては、音楽の授業自体がないこともあります。その際、必要ならば、音楽教科書を購入することになるでしょう。教科書の価格、音楽Iは

軽音楽部に役立つ教科書教材の紹介

令和4年度以降の入学生が使う、平成30年告示版の指導要領に準拠した高校の音楽教科書は、計十冊あります。ただし、音楽IIIの教科書は、本年4月から使われ始めるもので、3月の執筆時点では用意できないことから、本文では主に音楽I及びIIの教科書を中心に紹介します。

どの教科書も、古今東西多種多様な教材楽曲が掲載されていて、興味深いところですが、今回ぜひ着目いただきたいのは、これ以外の文章や資料類です。これらの存在が一般的な曲集と教科書の決定的な違いと言っても過言ではありません。「MOUSA1」p.106-111は、「バンド・アンサンブルに挑戦」と銘付した単元があり、教材曲として、「タイムマシンにおねがい」（作詞 松山猛、作曲 加藤和彦）のバンドスコアが掲載されています。こ

五百二十二円、音楽IIは三百四十五円、音楽IIIは三百五十五円と、昨今の情勢に鑑みると、信じられないほど安価です。（注釈3）部費や生徒負担で購入しても、負担を抑えられるでしょう。

（注釈1）高等学校学習指導要領（平成三十一年告示）

（注釈2）本文では、義務教育段階における音楽科の教科書、及び高等学校音楽I・IIを指すものとする。

（注釈3）教科書の価格は、官報告示によることとなっている。ここには、令和六年度の価格を記した。

の単元では、楽譜と共に、演奏に使うエレキ・ギター、エレキ・ベース、ドラムス、キーボードといった軽音楽部でもお馴染みの楽器群や記譜法の紹介、アンプやエフェクターの説明もなされています。

人生初のバンド・アンサンブルに挑戦する生徒に向けて、必要な基礎的な知識事項が凝縮されているのです。軽音楽部の新入部員らには必見でしょう。

また、全社の音楽Iの教科書にて、アコースティックギターの適切な構え方のような導入事項から、詳しい説明がなされています。音楽IIならば、「ハンマリング・オン」「プリング・オフ」といった技法も登場します。「高校生の音楽I」「MOUSA①」「MOUSA②」には、掲載のQRコードを介して動画まで視聴できるようになっています。強力な支えとなることでしょう。

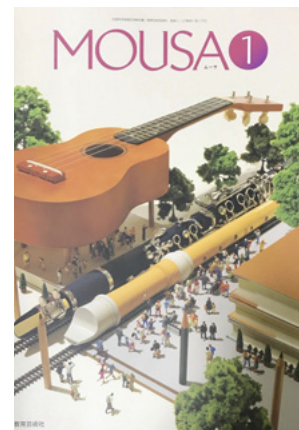
軽音楽部の活動の幅を広げるための教材も、多数掲載されています。「ON!2」p.107-109「映像と音・音楽」は、現実の劇伴や効果音の解説に続いて、「映像作品に音・音楽をつけてみよう」という創作活動をする単元です。しかも、一例に「吹奏楽部の部活動紹介動画」制作があるので、これを軽音楽部に置き換えれば、YouTube、学校行事などにすぐ活用できるでしょう。また、音楽にまつわる権利関係の内容は、全ての教科書にあります。

『Tutti+1』p.150に「MP3」「Tutti+2」に、サンプリング周波数といった、技術的な話も載っています。

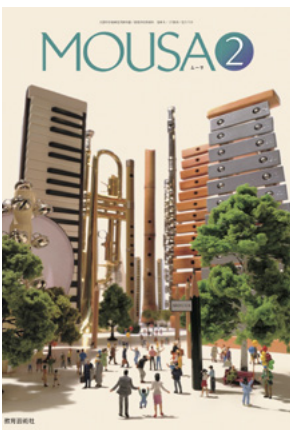
ロック史も、現在の教科書の単元になっています。中でも充実しているものは『MOUSA①』p.104-105です。近年に至る歴史が凝縮されています。他『Tutti+2』巻頭p.③・④は「ビートルズ特集です。検定済教科書を部活動で活用することは、運動部活動で既に提案されている試みです。関西大学人間健康学部 神谷拓教授は、著書（注釈4）にて、高校の保健体育教科書の活用の有効性を論じています。詳しい内容は同書に譲りますが、部員自らが、教科書を参考に練習内容を立案していく流れが取り上げられています。

このように、音楽教科書には、活動に不可欠な知識、技能、思考の糧が詰まっています。軽音楽部でぜひ活用してみましよう。

文・長野いつき



▲ MOUSA ① 教育芸術社



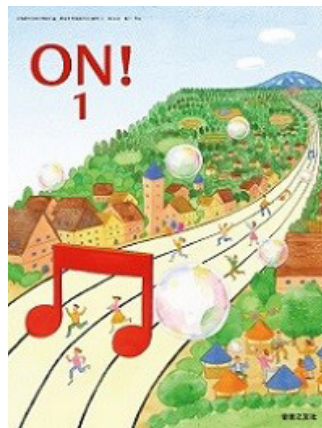
▲ MOUSA ② 教育芸術社



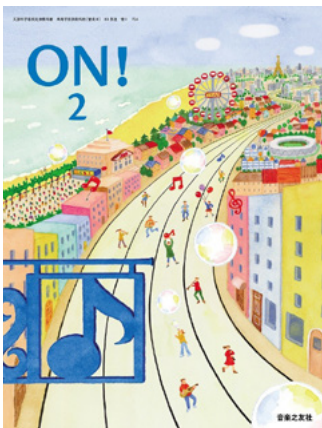
▲高校生の音楽① 教育芸術社



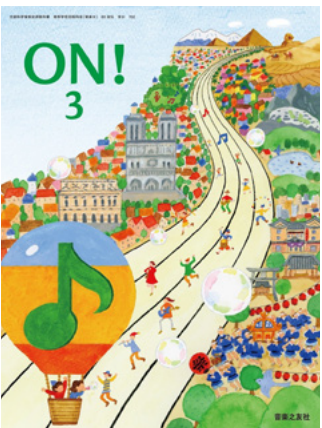
▲高校生の音楽② 教育芸術社



▲ ON! 1 音楽之友社



▲ ON! 2 音楽之友社



▲ ON! 3 音楽之友社

音楽の学習指導要領は、「創作」も歌唱や器楽と並ぶ一領域です。

『ON!1』p.147-155は、歌詞のリズムを考える活動や旋律の創作から、コードボイスング、全体構成要素の工夫など、創作過程を順に学んでいく内容になっています。

『MOUSA②』p.35「演奏スタイルを

音楽の学習指導要領は、「創作」も歌唱や器楽と並ぶ一領域です。

『ON!1』p.147-155は、歌詞のリズムを考える活動や旋律の創作から、コードボイスング、全体構成要素の工夫など、創作過程を順に学んでいく内容になっています。

『MOUSA②』p.35「演奏スタイルを

音楽の学習指導要領は、「創作」も歌唱や器楽と並ぶ一領域です。

『ON!1』p.147-155は、歌詞のリズムを考える活動や旋律の創作から、コードボイスング、全体構成要素の工夫など、創作過程を順に学んでいく内容になっています。

『MOUSA②』p.35「演奏スタイルを

音楽の学習指導要領は、「創作」も歌唱や器楽と並ぶ一領域です。

『ON!1』p.147-155は、歌詞のリズムを考える活動や旋律の創作から、コードボイスング、全体構成要素の工夫など、創作過程を順に学んでいく内容になっています。

『MOUSA②』p.35「演奏スタイルを

第1回 全国高等学校軽音楽部 オリジナルソング・グランプリ 結果発表

優秀賞（敬称略）

茂原北陵高等学校（千葉県）ジャストリブート「REBOOT」

名古屋市立緑高等学校（愛知県）白石 颯「MUM」

愛知県立鶴城丘高等学校（愛知県）有馬羽琉「aurora」

「バンド部門」の優秀賞に輝いたのは、千葉県茂原市にある茂原北陵高等学校軽音楽サークルに所属するガールズバンド、ジャストリブートのオリジナル曲「REBOOT」です。3月21日（木）、優秀賞の受賞を記念して、専門学校東京ビジュアルアーツのスタジオにて、入賞楽曲のレコーディングと複数のトラックのオーバーダビングを実施しました。ミキシングとマスタリングを終えた完成楽曲は後日、メンバーにお届けします。他の2部門の特別企画は現在日程を調整中です。



▲ヘッドフォンでクリックを聴きながらの「一発録り」に挑戦



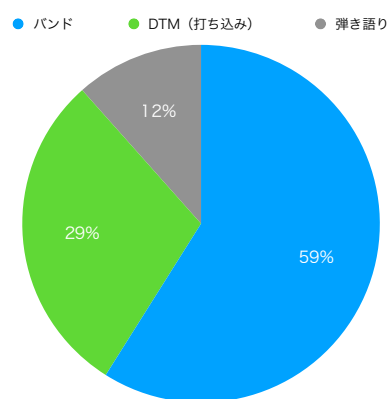
第2回は
8月開催



▲楽器やメインボーカルの録音後、全員でコーラスを重ね録り

音楽に優劣は付けられません。ただ、軽音楽部は教育の一環としての部活動であり、日々の練習に励むには、挑戦する目標が欲しい。その1つが運動部で開催されている大会の開催であり、そこでの順位付けです。「音楽に優劣は付けられない」と「部活動の目標として順位が欲しい」という二律背反するジレンマの狭間で考えたのが、大会においては、審査員の好みや影響を与えがちな楽曲の音楽性やプレイヤー個人の演奏技術ではなく、全員が一丸になって演奏するアンサンブルを評価するというものです。そうすることで、高校生の荒削りではあるものの、青春時代を切り取ったオリジナル楽曲の演奏と音楽ビジネスとして成功した有名なコピー演奏とを公平な視点に審査することが出来ます。一方、軽音楽部は無から有を生み出し、複数の部員（メンバー）と一緒に「創作する」というユニークな一面を持つ稀有な部活動です。その軽音楽部のユニークな一面を評価するためには、オリジナル楽曲に焦点を当てた、しかもコンテストではない形式の発表、披露の場が必要ではないかとして考えたのが、「全国高等学校軽音楽部オリジナルソング・グランプリ」です。バンドでの一発録りをはじめ、DTM（打ち込み）ソフトを駆使したものから弾き語りまで、初回にもかかわらず、全国各地から予想を大きく上回る応募をいただきました。音楽の

第1回 全国高等学校軽音楽部
オリジナルソング・グランプリ応募内訳



素晴らしいところだと思いますが、どの作品も優劣を付けたい素晴らしい出来栄でした。すべての応募楽曲に専門家のコメントシートを返却しましたが、多くのオリジナル作品に感動した音楽専門学校の講師陣から「もつとアドバイスをしてあげたい」「彼らが行き詰まっていることや悩みなどを聞いてあげたい」という声が上がリ、当初は予定になかった「オンライン講評会」を3日間実施。リモートで対面する機会を設け、楽曲全体の総評はもちろん、高校生からの質問や悩みに答えるなど、良いコミュニケーションの場になりました。今回は8月末日の応募締切で開催予定です。詳細は5月に本誌やホームページにて発表しますので、奮ってご応募ください。

文・三谷暢之

オリジナル楽曲制作に 取り組む意義

無から有を生むという「創作活動」ができる軽音楽部

軽音楽部での活動とそこで得られる経験は、社会活動において大きなアドバンテージになります。特に個性・協調性・コミュニケーション能力・社会性を育める場所として非常に有益であり、大きく言えば一人一人の人格形成においても軽音楽部での時間は特別です。その中でも特に、オリジナル楽曲制作に取り組む意義を考えます。

生徒は学びとして受け身の時間が多くそれが学ぶ上で必要な時間だと思えます。一方受け取るのは上手いが提案やオーダーを出せない。自己で決定出来ない等の悩みを持つ生徒もいるかと思えます。一見難しいこの全てをオリジナル制作によってなされていると思うのです。

作者は自分で描いた世界を如何にしてか伝え、メンバーはそれを受けて応えなければなりません。このコミュニケーションが日常会話より遥かに難しい。発信者は考えやイメージを言語化する力、音源や演奏、譜面やリファレンス等の具体的な提案が必要であり、受け取る側はそれを元にインスピレーションや答えに導く力と演奏・表現力が必要になります。

歌詞の世界をより深くすべく言葉や形

容に拘ったり、適した音色やボーシングに拘ったり等、ユニットで出し合ったアイデアが作品に宿ります。期日までにクオリティと楽曲の魅力を最大化する為に努力する事が、自然と社会で働くため、社会に貢献するために必要なプロセスを経験していると思います。

オリジナリティとは、主に自分が咀嚼してきた中から削り出された物とも言えますが、だからこそそ気になった言葉の正確な使い方や、文法、哲学、世界情勢等を改めて勉強したくなるのも面白い側面だと思えます。一人が発信したら、誰もが自分もしてみたいと一度は思う物です。そのタイミングで一手出せたら自分がプロジェクトリーダーになります。若いうちに両面の経験と、その数と種類を経る事で、益々自分を表現する事ができます。そして人と協調して動く上で有効な力を発揮できると思えます。

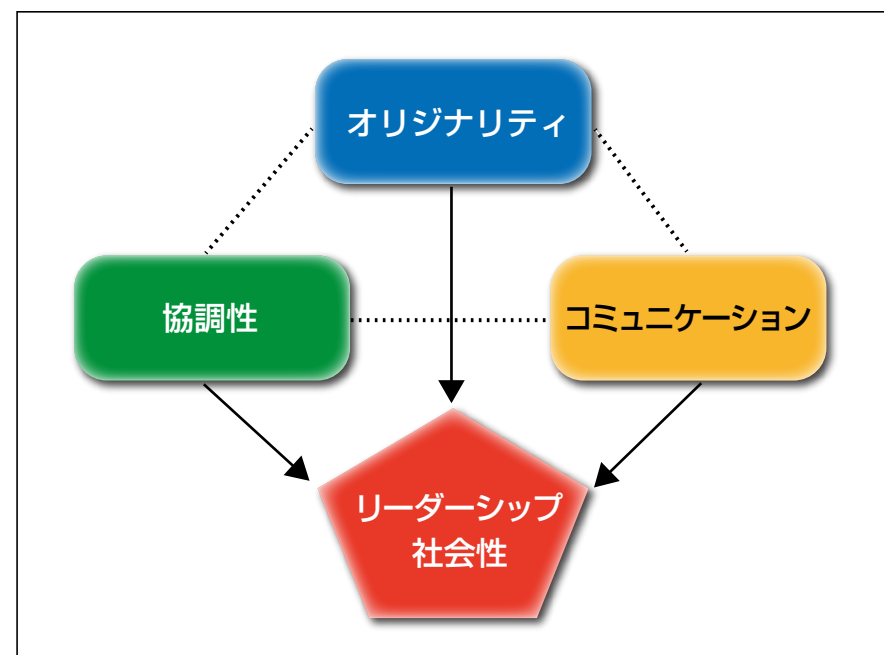
もう一つ！企画↓開発↓製造↓販売の工程が一つの部活動で出来る社会性の高い部活動は軽音楽部だけではないでしょうか？

企画…こんなライブをしたい！こんな曲を

創ってこういうメッセージを送りたい！
開発…言葉の選び方、アレンジにとことんアイデアを出し合う事。
製造…一番適した表現と演奏、アンサンブルを模索し、その精度を最大限高める。
販売…ライブで人に向かってプレゼンするのは大いに身を引き締めます。

目線や演出、音源のアップロード等、自分達が誠心誠意向き合ってきた作品を届けて、そのリアクションを確認する事は、本当に大きな経験になると思います。この工程を一周する頃、自然と周り

がどの様な作品を創っていて、どの様な取り組みをしているか気になるはずですよ。その知的好奇心は学びを益々具体化し、学びの本文と交差すると思えます。学校で学ぶ授業の中や日々起こる出来事のすべてが音楽にはリンクできますし、その学びを自分の表現として社会に提案出来る。自分達の可能性を信じ、仲間と意見をぶつけ合い。相手に応えようとすればする程、愛情を持って接する事が出来ると思えます。時に自分の身の程を突きつけられますが、成功と挫折が人を成長させると思えますし、ふと自分も



社会の一部だと認識すると思えます。オリジナル楽曲制作には終わりがなく、経験した事が次の発想を産む連鎖です。彼らは時代の流れと共に価値観や着眼点が変わり、互いに作用されあつて成長していくのだと思えます。答えは決まらず、彼らのコミュニケーションによって然るべき地点に自然と辿り着く楽曲を皆で評価し合う事で、尊重と敬意、他を認める、愛する事に繋がると思えます。

文・大野真之介

編集後記

辻 伸介

全国学校軽音楽部協会 副理事長
ドラマー、元音楽専門学校学科長

春は出会いと別れの季節。終わりがあって始まりがある。暖かな陽気は新たな挑戦のスタートに最適です。「軽マガ」も新たな装いでお届けできて大変喜ばしいところですが、特に部活動に関わる方々へのインタビューは大変有意義でした。今年度も軽音楽部の発展とイメージ向上のために頑張っていきたいと思います！

三谷暢之

全国学校軽音楽部協会／事務局長

毎春恒例、中部大会→近畿北陸大会→関東大会の「軽音楽大会ツアー」が終わったのも束の間、次は夏の大会に向けて、鋭意準備中です！プライベートでは、約4年間伸ばしていた髪の毛をバツパリと切りました！令和6年度は身も心もサッパリして、仕事に邁進します。春の大会でお会いした皆様、ありがとうございました。

大野真之介

ALBATROSS Drums

夢の実現の為昨年上京したものの、先月ドラマーとしてあるまじき左手首骨折の怪我をしました。普段何気なくしている作業に左手がどれほど関わっているか、再認識する毎日です。毎日当たり前に動かしている身体を客観的に捉える事がたので、今までより綺麗にスティックをコントロール出来る様になる気がします！怪我の功名！

長野いつき

音楽家
日本部活動学会理事 兼事務局長次

作曲科の出身ですが、ピアノや音楽学、部活動研究などもレトリリーで、活動が広範なので、「作曲科」「ピアニスト」等と絞らず、ざっくり「音楽家」と称しています。既に記事執筆、学会発表等で軽音楽部界にお世話になっておりますが、今後も各地の大会等にお邪魔致します。目撃されましたら、遠慮なくお声がけください。

投稿記事募集

原稿だけでなく、トークでも可能！
月刊軽音楽部では、部活動や軽音楽部に関する事例発表、問題提起、意見や持論、研究論文からイベントレポートなど、「部活動としての軽音楽部」の運営に携わる顧問の先生方の集合知のハブとして、投稿記事を広く募集し、誌面に反映させていきます。構想だけで文章の形になっていないとか、複数の文章はあるが全体として整理できていない場合、過去に発表した内容をブラッシュアップしたい場合、編集部がいろいろな側面でお手伝いすることもできますので、何かありましたら、お気軽にご相談ください。

投稿記事に関するお問い合わせは下記まで
Email info@keionkyo.org
TEL 045-913-0901

今月の新着コンテンツ

軽音楽部とはどんな部活動なのか、毎日の練習はどんなことをするのか、軽音楽部に入るとどんなものが必要になるのか…などなど、新入部員必見の定番記事を最新版にアップデートしました。詳しくはQRコードにアクセスしてお読みください。



左のQRコードにアクセスすると他の記事も読むことができます。



次号予告



※表紙はサンプルです

- ・部活動における機材選定の視点
- ・3大会を終えて審査員長が語る
- ・軽音楽部における音楽著作権を考える

次号は 4/25 (木) 発行

約3分で終わる

アンケートにご協力ください

顧問の先生方からのご意見、ご感想、ご要望をお待ちしております

新装刊の月刊軽音楽部はいかがだったでしょうか。編集部では月刊軽音楽部の個々の記事に対するご意見、ご感想はもちろん、雑誌全般へのご要望や取り上げて欲しいテーマ、困っていることなどを広く募集しております。また、原稿の校閲校正からリサーチなど、編集部のお手伝いをしていただけるスタッフも募集中しております。



Email info@keionkyo.org

地方自治体や地域の活性化と新しい部活動の在り方

日本部活動学会 第3回大会 発表抄録 於：兵庫大学 令和2年7月5日

1. 新しい部活動の在り方

2018年12月、文化庁が「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を発表しました。文化部活動は、生徒が芸術文化などの活動に親しむ基礎を形成するという意義を持ち、大会などの目標に向かって技術を磨いたり、自主・自発的に考えて創作や表現力を高めたり、友人とコミュニケーションを取ったり、将来のキャリア・プランにつながるような活動が可能です。運動部と違い、優劣を付けにくい点が、逆に大会至上主義や優勝至上主義に走らず、多種多様な活動を可能にします。その1つとして、地方自治体や地域の活性化に向けて活動することが考えられ、新しい部活動の在り方の提案になるのではないかと思います。

2. 軽音楽部の持つ可能性

①音楽の力
軽音楽部においては、既存曲を演奏することでも楽しみの1つですが、荒削りで新鮮なメロディーと高校生ならではの歌詞や楽器パートごとのフレーズづくりなど、自分たちで創り上げたオリジナル曲の素晴らしさは言うまでもありません。優勝だけを是とすることから脱却、作品を創作、磨き上げることができるのは、まさに文化部活動の特長と言えます。また、演奏を通した自己表現をすることで、多くの人に感動を与えるエンターテインメント性の高い活動ができるのが軽音楽部の特長です。

②バンドの力
複数の人間が集まり、演奏したり、楽曲を作る場合、コミュニケーションが大切です。気に入らない時も、バンド全体のことを考えて、主張と妥協を繰り返す必要があります。また、演奏する曲が決まれば、それぞれの楽器パートごとに練習を重ね、演奏する際はチームワークを発揮しないと合奏になりません。オリジナル曲を創ったり、既存曲をアレンジする場合にも、クリエイティビティを発揮することになります。このように、バンドとしてまとめるためには「コミュニケーション」、「チームワーク」、「クリエイティビティ」が欠かせません。これらは実社会で求められるスキルであり、それを部活動を通して習得することができるのは軽音楽部の特長です。

③イベントの力
軽音楽部の活動では、バンドで演奏するだけでなく、校内の演奏会や複数校が集まって合同演奏会を企画することができます。特に校外か

ら演奏者や観客を集める場合は事前の企画から、参加校の募集、当日の司会、ステージの進行や音響&照明、機材の設置から撤収、後片付けまでいろいろな役割が発生します。演奏者(表方)と彼らを支える裏方の仕事を通して、イベントは両者の協働作業であることを学ぶことができます。その中で、演奏はさておき、面白い企画を考えたり、司会がうまかったり、音響や照明に能力を発揮するなど、裏方として頭角を表す生徒が出てきたりします。いろいろな役割を分担することで、自分の居場所を見つけることができるのも軽音楽部の特長です。

3. 部活動による地域活性化

①生徒や学校のメリット
軽音楽部において、イベントの開催に多くのメリットがあることは前項の通りですが、それが校外の公的施設での開催となるとさらに増えます。自治体や学校近隣の公共施設を利用することで、生徒が地域との関わりを感じたり、学校の看板を背負っていることで、地域の中の高校という自覚が芽生えます。単に、バンドで演奏するだけでなく、会場の設営からイベントの進行、運営まで担当し、ステージでは自己紹介や学校紹介をすることでイベントの一部始終を学ぶことができます。また、個人的な趣味で活動するバンドと軽音楽部の活動を区別するためにも、公的な場所で開催する演奏会の意義は大きいと言えます。生徒にとっても、自分の友達ではない、面識のない観客に対してエンターテインメント性を発揮する機会となり、自分が楽しいだけでなく、どうしたら聴いている観客が喜んでくれるか、相手のことを考えるようになります。実際、通りすがりの人が自作の曲を最後まで聴いてくれて、拍手までもらえた…と、ある生徒が興奮気味に報告してくれた例もあります。

②地方自治体や地域のメリット
音楽は多くの人の耳目を集めることができます。高校生が制服で生演奏をします。知っている曲もあれば、知らない曲でも、基本的にはポピュラー音楽ですので、誰でも聴き入ることができます。演奏は1曲4～5分程度、1つのバンドの演奏も20～30分ほどで、それが何組も入れ替わるため、飽きのこないイベントになります。また、ほとんどのバンドは4～5人編成ですので、演奏するスペースはさほど広くないところでも実施することができ、デジタル楽器／音響機器を使うことで、出力音量をコントロールすることができるので騒音問題も気になりません。

- ③地方自治体や地域貢献の事例
 - ・静岡県立静岡西高校：部活動を通じた地域貢献をテーマに、年間6回以上の地域イベントを開催
 - ・京都府舞鶴市：全国学校軽音楽部協会との共催で「近畿北陸高等学校軽音楽コンテスト」を開催
 - ・京都市／新京極商店街振興組合：七夕祭りの会場で「軽音楽演奏会」を開催
 - ・イオンモール（木更津店、和歌山店）：イベントスペースで「軽音楽演奏会」を開催
 - ・トヨタカローラ京都：府下21店の店舗内で「軽音楽演奏会」を開催（予定）
 - ・千葉県長生郡白子町青年部：高校や大学の軽音楽部と社会人の野外コンサートを開催（予定）

4. NPO との協業による新しい部活動の在り方

①顧問の時間は有限
前項の通り、校外イベントを開催するメリットは多々ありますが、「働き方改革」が進む中、顧問は日常の授業や校務の他に部活動も監督しており、現実問題として地方自治体や地域に演奏会を提案したり、他校に出演を打診したり、関係者と打ち合わせをする時間はほとんどないのが現状です。

②NPO との協業
私が理事長を務める「NPO 法人全国学校軽音楽部協会」は、全国の中学校、高校、大学の軽音楽部を支援しており、俯瞰で考えることができる組織です。時間の足りない顧問を助けるだけでなく、地方自治体との交渉や県を跨いだイベントの企画や後援名義の申請と事業報告、参加校の募集などを行っています。NPO（特定非営利活動法人）は、何かを実行する際に必要と言われる、ヒト、モノ、カネ、情報を、継続性と中立性と公平性を保ちながら運営するのに適した組織形態だと言えます。

ヒトに関しては、当協会は軽音楽に関する専門家集団ですので、音響&照明から、ステージ運営、審査員や講師などのスタッフの手配を担当しています。モノに関しては、イベントで使う機材の提供やアドバイスを行っています。イベントにかかるカネに関しては、特定の企業に偏らないように考慮しつつ、スポンサーを探したり、寄付金を集めています。情報に関しては、全国約2,000校の中学校や高校の軽音楽部、約1,200の大学の軽音楽サークルのネットワークを使って連絡を取っています。以上のように、学校の部活動が地方自治体や地域とイベントを開催する際に、そのパイプ役としてNPOが果たせる役割は大きいと思います。今後、文化部活動が積極的に校外に出て行くことにより、地域との文化的な接点が増え、学校が果たす役割も進化するのではないでしょう。

三谷佳之
NPO 法人全国学校軽音楽部協会 理事長



高等学校軽音楽コンテスト

日頃の練習の目標となり、県を越えて、
他校の演奏スキルやマナーを学べる大会

第8回 近畿北陸大会	7/31 (水)	会場：舞鶴市総合文化会館大ホール
第15回 愛知県大会	8/2 (金)	会場：愛三文化会館
第10回 中部大会	8/3 (土)	会場：愛三文化会館
第5回 関東大会	8/25 (日)	会場：国立オリンピック記念青少年 総合センター 大ホール



KEIONGAKUBUSEMINAR

軽音学がセミナー

楽器の基礎知識から演奏スキルまでパート別に体系的に学ぶことができる講習会



計画中

KEIONGODOENSOUKAI

軽音合同演奏会

日頃の練習の成果を披露し合い、他校の演奏に刺激を受けることができる演奏会



計画中

軽音協 プレミアムセミナー

特定分野の知識や実践を専門家から深く
学んだり、体験することができる講習会

初歩からきちんと学べるPA講座

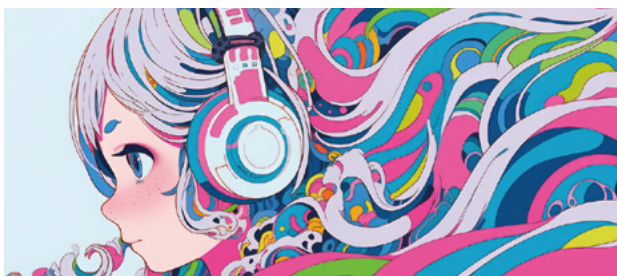
音響塾



4/1 (月)	会場：都筑公会堂
6/1 (土)	会場：未定
7/27 (土)	会場：未定
8/24 (土)	会場：未定
9/7 (土)	会場：未定

第2回 全国高等学校軽音楽部 オリジナルソング・グランプリ

高校生のクリエイティビティーや感性を活かした
オリジナル楽曲の素晴らしさを讃える発表の場



募集開始 5/初旬
応募締切 8/31 (土)

今後の予定：4/1、6/1、7/27、8/24、9/7

初歩からきちんと学べるPA講座

音響塾

3月2日 (土) 12:00 ~ 16:00 会場：公益財団法人かけはし芸術文化振興財団／Artware Hub (東京・西早稲田)

これまで当協会では、軽音楽部に所属する高校生や顧問の先生方に向けて、パート別の講習会やアンサンブルを中心としたバンドクリニックを実施してきました(参加無料)。しかし、短い時間の中で教えられることには限界があり、深くまで掘り下げて理解したい人には、少々物足りないと感じたこともあったのではないかと思います。

そこで、「もっと知識を深めたい人や基礎から学びたい人に、丁寧、かつピンポイントなテーマで講習会を開催する必要があるのではないか」と考えました。ざりとて、あくまでも部活動なので、音楽大学や音楽専門学校が求める、プロを養成するほどの高度な内容は必要ありません。「何となく理解していれば良いんじゃないの?」レベル以上、「プロとして従事するには知らないといけない」レベル以下という、まさにその中間の「知りたい!」を押さえたセミナー……「軽音協プレミアムセミナー」を始動。様々なテーマが挙げられると思いますが、中でも難解なイメージがあり、誰にも教えてもらえないけれど、演奏する際に必要な知識であり、多くの人が悩みを抱え、「知りたい!」という欲求があるであろう「音響」に焦点を当て、「音響塾」を開講しました。

よくあるセミナーの場合、PAミキサーを順番に触って、扱い方や効果を理解して……というのが一般的で、その場では理解したような気になりがちですが、数日経ってしまうと、あまりわかっていなかった……ということが往々にしてあります。

す。音響や電気に関する基礎的な部分の説明だけでも半日はかかるほか、音響エンジニアの仕事や丸ごと理解するには、1日ばかりで体験しなければ、本当に理解したことにはなりません。そういった長い時間、しっかりと深いところまで講義で取り上げたいと考えたのが、本セミナーの発端にあります。

そして、記念すべき第1回目となる軽音協プレミアムセミナー「音響塾」を3月2日(土)に実施。軽音楽部に所属する高校生をはじめ、顧問の先生や大学生、一般の方にもご参加いただきました。中には、ライブハウスでアルバイトをしている方が「音響のことをイチから学び直したい」ということでご参加いただいたほか、顧問の先生も「部活動を運営するにあたり、しっかりと理解しておきたい」という動機でのご参加でした。当協会が考える「プロになるほどではないけれど、何となくわかっていくという状態から抜け出して、理解を深めたい」というニーズを汲むことができたのではないかと考えています。

初回にもかかわらず、たくさんの方々に申し込みをいただいたのですが、誠に残念ながら、講師が流行病に罹患してしまい、開催日を延期しての実施でした。次回は「第4回 高等学校軽音楽コンテスト 関東大会」の仕込みを丸ごと、本番で使用するホール(講堂)で体験できる「音響マンの仕事/1日体験編」を4月1日(月)に実施。以降、基本的に毎月開催していきます。

文・三谷暢之



▲音響の基礎知識から必要な機材までを体系的に解説



▲正しい「8の字巻き」を実践を通して理解しました

目標に近づく

5 学科と
31 コース

ミュージシャン学科

ボーカルコース / ギターコース
ベースコース / ドラムコース
キーボードコース

音響学科

PAコース
照明コース
イベント企画・制作コース
レコーディングエンジニアコース
映像音響コース
サウンドクリエイターコース

映像学科

バラエティ番組コース
ドラマコース
ライブ・中継技術コース
映画監督コース
映画技術コース
動画クリエイターコース
ミュージックビデオコース
動画VFX・3DCGコース

写真学科

コマーシャルフォトコース
ファッションフォトコース
ライブフォトコース
スポーツフォトコース
ブライダル・営業写真コース
写真作家コース
クリエイティブフォトコース

パフォーミングアーツ学科

声優コース
俳優・タレントコース
ダンサーコース
ダンスボーカルコース
2025年誕生！ ネットタレント・インフルエンサーコース



エンタメの総合校
だから、できること。



ライブパフォーマンス

× 音響学科

PA / 照明 / 企画・運営



宣材写真撮影

× 写真学科

撮影 / 写真レタッチ



MV撮影

× 映像学科

撮影 / 演出 / 動画編集



レコーディング

× 音響学科

レコーディング

ご予約は
こちらから！



オープンキャンパス開催中！

◀◀ 詳しい日程や内容は公式HPをCheck！

ライブハウスの仕事

仕事の「好き」や「楽しい」を見つけること！

音楽やエンターテインメントにまつわる職業や業界は多岐に渡りますが、一体どんな世界なのでしょう。今回はライブハウスの仕事について、専門学校名古屋ビジュアルアーツの平松先生に伺いました。

ー ライブハウスの仕事全般について教えてください

平松：市街地にあるような、中小規模のライブハウスに関するのですが、イベントを企画して、立ち上げる場所から、当日の運営までを1つの会場で行うのが特徴だと思います。いわゆる市民会館や貸しホールの場合はイベントアがいて、プランナーや舞台監督もいて…という風に、いろいろな会社に関わることが多いのですが、ライブハウスの場合は店長をはじめ、受付やドリンク担当、音響さんや照明さん、イベントを企画したり、アーティストをブッキングするスタッフまで、すべての業務を自社でやれるというのが強みの1つだと思います。みんなで力を合わせて、1つのライブやイベントを作っていく…というのがライブハウスの主な仕事です。

ー ライブハウスの仕事の楽しいところや、やりがいを感じる瞬間を教えてください

平松：一貫して、1つのイベントに携わることができるのが、やりがいの1つだと思います。何度も出演してくれるアーティストやバンドが成長し、だんだんファンが増えてパフォーマンスにも磨きがかかっていくといった成長を感じることもできます。また、出演したアーティストが楽しそうな顔をしながらステージに立っている様子や、お客さんが満足した顔をしながら帰っていくところを見ると、「イベントがうまくいった良かった」という気持ちになるのはもちろん、来場してくれるお客さんが増えることもやりがいにつながりますし、ライブハウスの仕事ならではの醍醐味ではないでしょうか。ライブの仕事は「生モノ」であり、その日限りの仕事…という印象が強いかもしれませんが、1つのイベントやアーティストに長期間、携わることも多く、そういった部分もライブハウスの仕事ならではの醍醐味だと思います。

ー ライブハウスの仕事の大変なところを教えてください

平松：業務の性格上、世間の人たちと時間の感覚が違う点が大変かもしれません。どうしてもライブハウスの仕事は夜遅くまでかかることが多く、イベントがある日は昼過ぎに出勤して、23時に退勤したり、24時を越えることもあるなど、一般的な生活リズムのように…とはいきません。また、週末・土曜・日曜・祝日が書き入れ時であり、イベントが多く開催されるので、周りの人たちと休みのスケジュールが合わないのも、この仕事ならではの「あるある」です。

また、リハーサルや本番中に何かトラブルが起こった際など、即座の対応が求められるのが大変かもしれません。できる範囲の中で、一番良い解決策をパパッと考え、実行しなければいけないなど、柔軟な発想と即断力が求められることがあります。

ー ライブハウスの仕事は、どんな人にオススメですか？

平松：まずは「音楽が好き人」というのが一番ですね。ライブハウスの仕事には音響や照明、受付、ブッキング（企画）など、様々な役割がありますが、音楽が好きで、アーティ

ストと関わったり、それらに対して、やりがいを持てる人にオススメの仕事だと思います。また、ライブハウスの仕事は「接客業」にも通じる部分があるので、相手の気持ちを考えて動かなければいけません。人の気持ちを第一に考えることができたり、先回りした動き（気配り）ができる人は、すごく活躍する印象があります。待っているだけでは仕事が進まないことが多いので、自分で考えて、提案し、まとめていくなど、臨機応変に対応できたり、周りの人とうまくコミュニケーションが取れる人が向いていると思います。

ー ライブハウスの仕事を続けるのに大切なことは何でしょうか？

平松：「自分は〇〇が好き！」「〇〇をしている時が何よりも楽しい！」というものをしっかりと見つけることだと思います。やりがいは人によって違うと思うのですが、ライブハウスをはじめ、イベントや音楽に携わる仕事の中で「（この仕事を）続けていて良かった…」と感じるためには、まず自分の核となる「好き」という気持ちや大切にしているものを見つけられると良いですね。

自分という人間を形成する「核」となる好きなことや大切にしているものがあつた上で、いろいろな音楽を聴いたり、様々な人たちと出会い、感性を磨いていくことが、結果的に長くその仕事に携わっていけることにつながるのだと思います。出演するアーティストや主催するイベント、見に来ていただくお客さんが固定されてしまって、同じようなことを同じような規模感でやっているだけ…という状態にならないように、そこに新しい要素やフックとなるものを取り入れてみるなど、常にアップデートしていく姿勢が大切です。

他にも、興味がなかった音楽を耳にしたり、知らないアーティストが出演した際も「この音楽（バンド）って、こういうところが良いよね（素敵だよね）」という風に関心や面白さ、良いところなどを感じられるようになると、日々の仕事新鮮に映るほか、結果的に楽しく働き続けられると思います。



▲好きな音楽を体感できるのは、ライブならではの醍醐味



▲実習等を通じて、PA 機材や照明機器の操作を学びます

